

■はまなこ環境楽会 「互いの活動を知り合おう！」

浜名湖地域の様々な団体がそれぞれの環境活動を通じた現状をお伝えし、どうしたらみんなできれいで豊かな浜名湖を守っていきけるかを楽しみながら一緒に考えていただくイベントを開催します。

●3月3日(土) 13:00~16:30 (於: 浜松市市民協働センター2階ギャラリー)

- 活動パネル展示 (パネル、チラシ、見本などを展示)
- 調査活動報告
- 活動団体によりPR (パネルトーク)
- 浜名湖ワークショップ
 - ・浜名湖の幸・食体験
 - ・浜名湖に注ぐ川の水質検査 (パックテスト) 体験
 - ・私の好きな浜名湖の水辺風景

参加者
募集!



■ネットワークの新しい仲間紹介

◎NPO法人浜名湖クラブ (認証申請中)

浜名湖を会場に自然や歴史、文化、産業等を直に体感できるセミナー「五感教室」や講演会、視察会、交流会の開催内容などを行っていきそうです。ぜひとも一緒に活動しましょう。

★事務局: 株式会社浜名湖国際頭脳センター 電話 053-484-4000 URL <http://www.hamanako.jp/club/>

平成23年2月15日現在、66団体登録

■お悔やみ

当ネットワークの副代表の静岡文化芸術大学教授・宮川潤次氏が平成23年12月23日にご逝去されました。

彼は生前、浜名湖をラムサール条約の登録を旗印に活動の連携を図ろうと訴えてきました。今後は、故人の遺志を継いでより一層の活動をしていきたいと思っております。

【事務局からのお知らせ】

はまなこ環境ネットワークでは、活動団体の仲間を随時受付しています。ホームページから登録申請書をダウンロードしていただくか、あるいは事務局までお問い合わせください。 <http://www.hamanako-kankyo.net/>

はまなこ環境通信

活動テーマ

「浜名湖の水草(アオサ・アマモ)の循環を考える」

第1回 浜名湖エコワークショップ(現地調査)

- ◆日時 平成23年11月12日(土)13:00~16:45
- ◆場所 浜名湖現地調査:村瀬漁港集合、浜名湖内
ワークショップ:浜名湖頭脳センター会議室
- ◆内容 ○浜名湖のアオサやアマモの現状と水環境の講話
○湖上観察(アマモ・アオサの観察、湖岸の景観観察)
A: 庄内・伊佐地コース
B: 鷲津・新居コース
○意見交換(アマモ・アオサの循環のしくみ、水質浄化等)
- ◆参加者 はまなこ環境ネットワーク登録団体など18名



浜名湖現地調査のコース

■浜名湖のアオサとアマモに関する講話(漁師:古橋氏)

浜名湖の漁業に30年以上携わっている古橋様より、漁師の立場から見た浜名湖のアオサやアマモの現状と水環境について、お話をいただきました。

アマモ場は、浜名湖の富栄養化が進んだことでアマモやアオサの量が急激に増加し、漁への支障、生態系への悪影響なども生じている。これ以上の増加回避が求められること、また定期的な回収による循環システムの構築が重要と言っています。



▲漁師さんよりアオサ・アマモ場の話聞く



▲アマモとアオサ

第1回 浜名湖エコワークショップ(現地調査 その2)

■湖上観察

鷺津駅沖合は、湖底に大量のヘドロが堆積して引き上げると悪臭を放ち、アマモをはじめ湖底には何もなく、表鷺津沖合では、湖の中を見るとアマモ場があるものの、その上に多くのアオサが堆積していました。

ガーデンパーク沖合には、広大なアマモ場が自生しており、ここでは「海のゆりかご」を見ることができました。庄内方面は、水深が深くアマモ場は見られなく、11月ということでアオサも少ない状態でした。湖側から水際をみると浜名湖は人工的な護岸が多いことを改めて感じました。



▲湖西市鷺津駅裏の沖合(ヘドロ状態)



▲表鷺津沖合(アマモとアオサと一緒に)



▲ガーデンパーク沖合はアマモ場が広がる

浜松市西区村櫛町の浜名湖頭脳センターの近くにある村櫛町の徳増氏の農場でアオサ・アマモをストックして畑の施肥に利用しており、その現場を見学した。

この農地のアマモ・アオサは、当ネットワークが、昨年8月に開催した浜名湖エコキッズ体験塾で回収したものです。



▲アマモ・アオサの堆肥利用

■意見交換 (会場：浜名湖頭脳センター)

浜名湖頭脳センターの会議室にて、参加者による意見交換を行いました。浜松の企業者や団体が協働により、水質浄化を図り、また事業そのものの強化を図ることで、湖の美化の観点からも、事業の推進の観点からも良好な手法について模索していくことを話し合いました。



第2回 浜名湖エコワークショップ(紹介・会議)

- ◆日時 平成24年2月11日(土) 13:30~16:45
- ◆場所 地球のたまご(OMソーラー協会社屋)
- ◆内容
 - 前回のエコワークショップ報告、活動紹介
 - 浜名湖の水草の循環に関する調査報告
 - 意見交換 テーマ「水草を利用した浄化活動及び活動連携策の企画・提案」
- ◆参加者 環境保全活動に興味がある団体・個人 12名



■水草の循環活動の紹介

①NPO法人はまなこ里海の会(窪田事務局長)

浜名湖の自然や地形とその仕組み、全国でも貴重な環境を残す浜名湖の環境を守り、より良いものにしていくための努力が求められることが共通認識として示されました。

浜名湖のアマモが果たす役割について、浜名湖に生息するアマモの種類についても示していただきながら説明しました。アマモの浄化能力により浜名湖に近年アサリが増えていることも紹介された。



②NPO法人 地域生物資源研究会(久保理事長)

NPO 法人地域生物資源研究会の久保靖理事長より、地域生物資源研究会が浜名湖で取り組んできた、マングローブによる廃養鰻池の緑化、浜名湖でも育成可能なマングローブの耐寒株の育成状況、そして特産品である「どうまん蟹」の飼育について活動紹介がされました。

今後、どうまんが全国展開できる生産量を確保することで、環境保全と両立する新しい水産養殖が実現できれば地域活性化につながると述べました。



▲廃養まん池でのマングローブの栽培

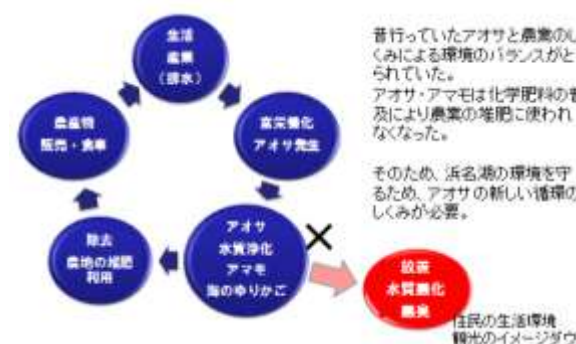
③自然農法こだわり農業実践者の紹介

農地でのアオサとアマモの堆肥としての利用を検討するため、現在、自然農法でこだわり農業を実践して堆肥への活用を行っている浜松市中区村櫛町の農家(徳増氏)へのヒアリングを報告しました。

徳増氏は、約1,000坪の畑に1年目は80トン、2年目以降は20トン程度の堆肥化したアマモ・アオサを投入して、サトイモ、ズッキーニ、ブロッコリー等を自然農法で栽培を行っています。

■浜名湖の水草の循環に関する意見交換による提案

参加者と水草の循環システム構築のための意見交換を行いました。



- ①浜名湖の循環システムの構築に向けた検討
- ②はまなこ環境ネットワーク内に「プロジェクト委員会」の立ち上げ
- ③住民行動による水草の循環モデルの実施
 - 回収した水草を農地に施肥する実験圃場を求めていく。
 - 浜名湖エコキッズ体験塾で実践